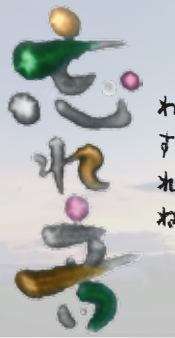


言葉で感じる季節



忘れ音

冬を迎え、冬を越え、
春を迎えるまで、ねぎたちが
長い期間過すことになる土。
年々短くなっていく秋の季節に
しつかり土台を作ります。



秋晴れは、夏の空とはまた違い、澄んだ空気と
スッキリとした空模様が心地よく感じます。

秋も終わりに近くにつれ、虫たちの数は減り、
声も次第に細くなっていきます。
すっかり静かになった夜に、か弱い虫の音が
聞こえてくることがありますね。
季節外れのその声を「忘れ音」と言います。
忘れた頃に聞こえる声だからか、忘れられた
ように残された虫の声だからか、
いずれにしても、この季節だからなのか、
心に沁み入る声です。

夏はたくさん悩まされた畑の虫たちの存在も、
は増いに寒くなるにつれ見かけなくなりました。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.162

2020年11月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

今月の

ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を
少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

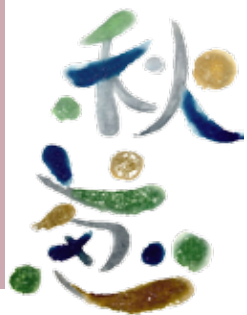
産地も移り変わりゆく中、秋葱のお届け

今月からは久御山・亀岡も秋めく産地で育ったねぎをお届けします。

6月末から7月初旬の初夏にかけて定植したねぎたちです。7月の長雨、8月の酷暑
と例年にない厳しい環境でのねぎ栽培となりました。

その為、初期生育が思わしくなく、いつもより生育スピード
が遅い圃場が多くなりました。

そんな中でも、農人たちの努力と10月の天候の助けもあり
お届けできている秋葱たち、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

葉面散布で、畑へ通えた小さなねぎたちに栄養を!



季節は秋でも、冬～春を見据えて作業中

朝晩の冷え込みが感じられるようになり、日中働きやすく、畑のねぎたちにとっ
ても良い環境になっています。9月中旬までは生育が止まっていた圃場も、気温
の低下や雨をもらって、すくすくと生育してくれました。

また、この時期は春ねぎに向けての準備も始まっています。今年から栽培業務に
入っている独立研修生たちも自分で初めての畝立て作業を実施。先輩社員の指導
を受けて行っています。最初はなかなかまっすぐできないものですが、みんな飲
み込みが早く、大きく曲がることなく、きれいな畝を立てられています。

本人たちは、まだまだ納得し
ておらず、向上心を持って取
り組んでくれています。どん
どん作付け準備を進めていき
ます!

おすぐ、曲がりのない畝を立てられれば、ねぎ
畑になった時に見たい景色になるので、
簡単に行き見えて嬉しい選手にも具合十分!

畝を立てて、マルチが張って一通りの作業が完成です!



畑を耕しているとき、コオロギが
たくさん出てきました。バッタ
やカマキリ、脇に咲く秋の花。
土の状態も良いなと感じます。

